



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

第2回指定校訪問 1年生頑張りました！



〇〇〇先生と甲子園の土



夏休みの思い出を語る



楽しそうな雰囲気の中で

9月8日(金)の5校時、国際教養大学准教授〇〇〇〇先生、中央教育事務所指導主事〇〇〇〇先生を指導者にお迎えし、「第2回指定校訪問」を行いました。当日は1年生がPower Up Speaking"What Did You Do in Your Summer Vacation?"という特設単元での英語の研究授業を提示しました。この授業では子どもたちがグループに分かれ、「夏休みにしたこと」を絵に描いて示し、"Show and Tell"の形式で英語で対話を行いました。

授業の導入で、〇〇〇〇先生がゲストティーチャーとして登場し、自分の「高校時代の夏休み」の思い出として、甲子園に出場した時の写真や「甲子園の土」を提示してくれました。野球部の子どもたちは高校時代の〇〇〇先生の姿にすぐ反応したのですが、他の子どもたちがすぐに気が付かなかったのが意外でした。

グループ内では、子どもたちの絵の内容について Where、When、Who、What、How などの疑問詞を用いて、過去形で対話活動を行いました。事前に動詞の過去形の規則変化や不規則変化についても触れており、意欲的に取り組むことができました。しかし、絵の情報量が限られていたこともあって、そこから引き出される疑問文にはどうしても限りがあり、なかなか話題が深まったり、広がったりできなかったため、次回からは「写真」を使うなど、工夫していきたいと思えます。

1年生は小学校の時から「学校訪問」や「研究授業」を沢山経験してきていることもあり、色々な先生方から授業を参観されることには慣れており、緊張することなく普段以上に自然体で授業に取り組んでいました。

9月27日には由利小で、10月27日には本校で文部科学省指定「英語教育強化地域拠点事業」公開研究会が予定されています。4年間の研究指定を受けて、研究最終年の総まとめの時を迎えることとなります。子どもたちも、先生方も、自信を

もって、これまで培ってきたものを十分に発揮してくれることと思えます。

ラスト1ヶ月、しっかりと頑張っていきましょう。

2年生普通救命講習 命の重さを学ぶ



心停止の予防

早期認識と通報

一次救命処置
(心肺蘇生とAED)

二次救命処置と
心拍再開後の集中治療

9月11日(月)の午前、今年も2年生を対象に消防署の方々を講師にお迎えして「普通救命講習」を実施しました。

これは4時間で行われる講習で心肺蘇生法やAEDの使い方、応急手当などを



若手消防士さんの講義

学ぶものです。最初の2時間はDVDを使っの講義、そして後半の2時間は人形を使っの実践的な練習を行いました。

家族や友だちが目の前で倒れたり、事故に遭って重篤な状態となり、救急車の出動を要請したとしても、救急車が到着するまでには時間がかかります。日本では、119番通報があっから救急車が現場に駆けつけるまでに平均して約10分かかるそうです。その10分を側にいた人がどう過ごすかが大切で、その10分で適切な心肺蘇生法とAEDの使用ができれば、生存率は上がるそうです。



心肺蘇生法とAED

病気や事故で急変した人を救命し、社会復帰させるために必要な一連の流れを「救命の連鎖」といいます。上記のイラストに示したように、救命の連鎖となる「4つの輪」が素早くつながると救命効果が高まります。鎖の1つ目の輪は「心停止の予防」、2つ目の輪は「心停止の早期認識と通報」、3つ目の輪は「一次救命処置(心肺蘇生とAED)」、4つ目の輪は救急救命士や医師による高度な救命治療を意味します。つまり4つの輪のうち最初の3つまでが側にいる人の重要な役割となります。

今年は大雨などの自然災害や週末の地震など、我々の本当に身近な所で命を脅かす脅威が起きています。いざという時に、大切な命を守る知識や技能を是非身に付けておきたいものです。



真剣な眼差しの2年生

今回受講した2年生は、講義に、実習に大変真剣に取り組んでいました。講習は勿論具体的な救命技術を身に付けることがねらいとなっていますが、一番学んでほしいことはやはり「命の大切さ」です。先日、テレビのニュースで増水した河川からヘリコプターで救助する消防士さんの姿を見ました。命を守るために命をかけて仕事をする人たちがいます。この「救命講習」もまた、命を守るための大切な仕事でした。

特に、今回ご指導いただいた方々は皆さん20代の消防士ばかりだったので、子どもたちが「将来の自分の姿」として捉えてくれたら、「キャリア教育」としても大変意味のあるものであったと思いました。